

近畿厚生局長 殿

公立大学法人和歌山県立医科大学
理事長 板倉

印

和歌山県立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成22年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	106人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

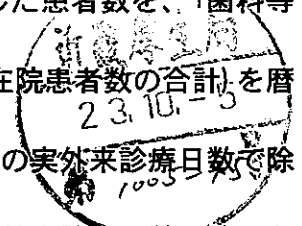
職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	358人	31人	363.3人	看護補助者	38人	診療エックス線技師	1人
歯科医師	14人	0人	14.0人	理学療法士	13人	臨床検査技師	38人
薬剤師	31人	0人	31.0人	作業療法士	5人	臨床衛生検査技師	0人
保健師	1人	0人	1.0人	視能訓練士	4人	その他	1人
助産師	27人	0人	27.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指庄	0人
看護師	683人	11人	691.1人	臨床工学技士	7人	医療社会事業従事者	5人
准看護師	8人	4人	11.4人	栄養士	0人	その他の技術員	2人
歯科衛生士	2人	0人	2.0人	歯科技工士	3人	事務職員	81人
管理栄養士	4人	0人	4.0人	診療放射線技師	33人	その他の職員	6人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
 歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	651.1人	9.0人	660.1人
1日当たり平均外来患者数	1,317.7人	82.5人	1,400.2人
1日当たり平均調剤数			999.80剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者数延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。



(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
SDI法による抗がん剤感受性試験	0人
HDRA法またはCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験	45人
内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	18人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	該当無し	取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	24人	・膿疱性乾癬	2人
・多発性硬化症	44人	・広範脊柱管狭窄症	7人
・重症筋無力症	42人	・原発性胆汁性肝硬変	27人
・全身性エリテマトーデス	147人	・重症急性膵炎	3人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	2人
・再生不良性貧血	18人	・混合性結合組織病	17人
・サルコイドーシス	28人	・原発性免疫不全症候群	0人
・筋萎縮性側索硬化症	35人	・特発性間質性肺炎	7人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	110人	・網膜色素変性症	5人
・特発性血小板減少性紫斑病	30人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	1人	・肺動脈性肺高血圧症	0人
・潰瘍性大腸炎	86人	・神経線維腫症	10人
・大動脈炎症候群	14人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	3人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	0人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	0人
・脊髄小脳変性症	47人	・ライソゾーム病	0人
・クローン病	40人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1人
・悪性関節リウマチ	6人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	429人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	44人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	15人
・後縦靭帯骨化症	34人	・肥大型心筋症	6人
・ハンチントン病	2人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	16人	・ミトコンドリア病	4人
・ウェゲナー肉芽腫症	3人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	1人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	28人	・黄色靭帯骨化症	3人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	18人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

933

129

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・悪性黒色腫または乳がんにおけるセンチネルリンパ節の固定と転移の検索	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	月2回
部 検 の 状 況	部検症例数 32 例 / 部検率 5.90%

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

(単位：千円)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
遺伝子発現型腫瘍融解性ウイルスを用いた胃癌オーダーメイド治療の開発	辻 俊 明	外科学第二	1,521	補委 日本学術振興会
組織培養法を応用した肺癌多臓器転移モデルによる転移先臓器特異性決定遺伝子群の同定	吉 増 達 也	外科学第一	4,290	補委 日本学術振興会
ヒト非小細胞肺癌副腎転移の分子機構の解析	尾 浦 正 二	外科学第一	650	補委 日本学術振興会
糖尿病・高血圧モデルにおけるスタチンの血管内皮保護作用に及ぼす麻酔薬の研究	小 川 幸 志	麻酔科学	1,040	補委 日本学術振興会
アンドロゲン依存性前立腺癌細胞株へのIL6遺伝子導入による細胞形質の変化	原 勲	泌尿器科学	780	補委 日本学術振興会
手根管症候群の病態に関する基礎的研究と装具療法への応用	辻 亜 紀 子	リハビリテーション科	650	補委 日本学術振興会
冠動脈プラーク不安定化における単球及び血管内皮前駆細胞の関与と治療法の確立	今 西 敏 雄	循環器内科	1,300	補委 日本学術振興会
慢性閉塞性肺疾患の組織傷害における線維芽細胞の役割の解明	杉 浦 久 敏	内科学第三	1,560	補委 日本学術振興会
腎機能傷害に伴うリン過剰にตอบสนองするリン感受性機構と石灰化を伴う血管障害の検討	重 松 隆	腎臓内科・血液浄化センター	780	補委 日本学術振興会
筋再生過程におけるウロキナーゼの関与の検討	村 田 顕 也	神経内科	1,300	補委 日本学術振興会
二次性血球貪食症候群におけるT細胞抑制性補助シグナルの研究	神 波 信 次	小児科学	1,170	補委 日本学術振興会
上皮間葉移行 (EMT) に着目した多発性嚢胞腎発症機序の分子生物学的検討	中 西 浩 一	小児科学	1,300	補委 日本学術振興会
反復経頭蓋磁気刺激と脳画像によるうつ病の治療反応性の解明	篠 崎 和 弘	神経精神医学	910	補委 日本学術振興会
消化器癌に対するTGF- β siRNA導入樹状細胞による新規免疫遺伝子治療の開発	中 村 公 紀	外科学第二	780	補委 日本学術振興会
肝硬変合併肝切除術後に効果的な熱量補給を可能にする新組成脂肪乳剤の有用性	瀧 藤 克 也	中央内視鏡部	1,040	補委 日本学術振興会
CEACAM1を分子標的とした大腸癌の新規分化誘導療法の開発	横 山 省 三	中央手術部	650	補委 日本学術振興会
スキルス胃癌に対するハイブリッド型機能分子搭載ウイルスによる新規治療開発	中 森 幹 人	外科学第二	650	補委 日本学術振興会

小計
17

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
食道癌に対する癌抑制遺伝子NPRL2を用いた新規放射線治療の開発	上田健太郎	外科学第二	780	補委 日本学術振興会
グラフト血流波形解析によるグラフト開存の予測	岡村吉隆	外科学第一	520	補委 日本学術振興会
血管内皮増殖因子の心筋直接導入による虚血性心不全の改善	戸口幸治	外科学第一	520	補委 日本学術振興会
脊髄損傷細胞死におけるGluR2の関与について	吉田宗人	整形外科学	390	補委 日本学術振興会
遺伝子多型に基づいた麻酔中の血圧変動の予測	木本吉紀	麻酔科学	910	補委 日本学術振興会
DAPキナーゼ関連分子の発現制御による抗癌剤多剤耐性克服癌治療法の開発	田中哲二	産科婦人科学	1,300	補委 日本学術振興会
網膜芽細胞腫に対する新治療法開発に関する研究	宮崎賢一	眼科学	1,170	補委 日本学術振興会
パーキンソン病の治療薬としてのゾニサミドの作用機序の解析	三輪英人	神経内科	1,690	補委 日本学術振興会
発作性夜間ヘモグロビン尿症の関連の特発性造血障害の分子病態の解明	中熊秀喜	輸血・血液疾患治療部	1,690	補委 日本学術振興会
日本人先天性・乳児ネフローゼ症候群における新しい責任遺伝子同定と発症機序の解明	吉川徳茂	小児科学	1,560	補委 日本学術振興会
衝動性評価は重症度評価を超える双極性障害自殺予測因子となり得るか?	小瀬朝海	神経精神医学	650	補委 日本学術振興会
アットリスク精神状態の前向き追跡による神経生理学的介入指標の確立と発症機序の解明	鶴飼聡	神経精神医学	650	補委 日本学術振興会
Niche理論に基づく癌幹細胞ワクチン療法の開発	松田健司	外科学第二	1,430	補委 日本学術振興会
肝虚血再灌流前後の肝組織内ヒドロキシラジカルリアルタイム定量の臨床的意義	内山和久	外科学第二	1,300	補委 日本学術振興会
一酸化窒素合成酵素アイソサイムによる心筋虚血の改善	本田賢太郎	外科学第一	1,950	補委 日本学術振興会
メタボリック症候群でのヒト血管ストレス機序解明と遺伝子治療および麻酔薬作用の研究	伊良波浩	麻酔科学	910	補委 日本学術振興会
スタチンによる血管内皮傷害に対する急性期改善作用機序の解明	瀬藤容子	麻酔科学	1,690	補委 日本学術振興会
母体免疫による乳幼児の易感染症の予防に関する研究	保富宗城	耳鼻咽喉科学	1,430	補委 日本学術振興会
小児中耳炎の難治化の病態解明とウィルスと細菌の相互作用に関する研究	山中昇	耳鼻咽喉科学	1,430	補委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
頭頸部癌における新しい転移関連遺伝子の検討と早期診断システムの開発	田村真司	耳鼻咽喉科学	1,690	補委 日本学術振興会
上気道感染症難治化へのインフルエンザ菌、溶連菌の細胞内侵入機序と治療に関する研究	戸川彰久	耳鼻咽喉科学	1,560	補委 日本学術振興会
難治性神経麻痺性角膜症及びアルカリ外傷に対するTRPチャンネルを介した治療法開発	岡田由香	眼科学	1,300	補委 日本学術振興会
超大孔径膜二重血液濾過による致死性メチエータHMGB-1除去についての研究	中敏夫	救急・集中治療部	1,170	補委 日本学術振興会
上皮-間葉移行に着眼した顎関節内障関節円板線維化の細胞生物学的病態解析	藤田茂之	歯科口腔外科学	1,690	補委 日本学術振興会
腎臓病検診の医療経済	坂口俊文	腎臓内科・血液浄化センター	2,080	補委 日本学術振興会
高血圧に伴う血管性認知症、慢性腎障害における細動脈硬化とストレスの関与の解明	羽野卓三	教育研究開発センター(循環器内科)	1,560	補委 日本学術振興会
次世代光干渉断層法によるスペクトロスコピー開発と不安定プラーク治療効果判定	赤阪隆史	循環器内科	1,820	補委 日本学術振興会
グレリンによるインスリン分泌抑制機序の解明	西理宏	内科学第一	1,300	補委 日本学術振興会
喫煙喘息におけるステロイド抵抗性の病態解明	松永和人	内科学第三	1,300	補委 日本学術振興会
川崎病の病因解明に対する新たなアプローチ	鈴木啓之	小児科学	2,080	補委 日本学術振興会
新生児末梢循環モニターの開発と臨床評価	奥谷貴弘	小児科学	3,510	補委 日本学術振興会
皮膚ループスエリテマトーデスの光線過敏の病態と人種差に関する研究	古川福実	皮膚科学	2,080	補委 日本学術振興会
アットリスク精神状態の介入指標の確立と病態解明を目指す縦断的TMS-NIRS研究	辻富基美	神経精神医学	2,210	補委 日本学術振興会
抗癌剤・放射線感受性遺伝子解析を応用した直腸癌に対する新規術前化学放射線療法	堀田司	外科学第二	2,210	補委 日本学術振興会
腫瘍局所におけるIL-17産生制御による新しい分子標的治療の開発	岩橋誠	外科学第二	2,470	補委 日本学術振興会
MPF発現からみた膀胱腫瘍の新規悪性度診断	谷真至	外科学第二	2,600	補委 日本学術振興会
腰部脊柱管狭窄症の発症要因の解明：車両搭載型MRIを用いた地域住民コホート研究	山田宏	整形外科	1,950	補委 日本学術振興会
臓器血管収縮弛緩におけるペルオキシソーム増殖因子活性化受容体の役割と麻酔薬の影響	角谷哲也	麻酔科学	1,690	補委 日本学術振興会

小計
19

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
メタボリックシンドロームからみた尿路結石症の新たな予防法確立に向けた臨床研究	柑本康夫	泌尿器科学	2,340	補委 日本学術振興会
抗癌剤による卵巣機能不全の分子機構解明と予防方法の確立	宇都宮智子	産科婦人科学	2,340	補委 日本学術振興会
頭頸部癌における抗癌剤感受性関連マイクロRNAの検討とオーダメイド治療システム	横山道明	耳鼻咽喉科学	2,080	補委 日本学術振興会
EBウイルス関連リンパ腫発症・進展に与える宿主自然免疫の影響	山内一真	耳鼻咽喉科学	1,690	補委 日本学術振興会
インテグリンによるSmad系の調節を標的とした眼線維化疾患の新規治療戦略の確立	雑賀司珠也	眼科学	1,430	補委 日本学術振興会
揮発性麻酔薬に対する抗体の作成	畑埜義雄	麻酔科学	600	補委 日本学術振興会
遺伝子発現プロファイリングを応用した肺癌に対する新規ペプチド免疫療法の開発	山上裕機	外科学第二	1,200	補委 日本学術振興会
長幹骨に対する経皮的髄内釘作成術併用の基礎的検討	中田耕平	放射線医学	2,600	補委 日本学術振興会
プロポフォールの代謝における遺伝子多型の影響	時永泰行	麻酔科学	650	補委 文部科学省
ヒト多発性嚢胞腎相同モデルにおける尿細管上皮細胞極性消失の分子生物学的機序解明	戸川寛子	小児科学	1,170	補委 文部科学省
小児ネフローゼ症候群における小胞体ストレスの分子生物学的検討	島友子	小児科学	1,170	補委 文部科学省
二次性血球貪食症候群におけるヘムオキシゲナーゼ-1の研究	芳山恵	小児科学	1,170	補委 文部科学省
ユビキチンプロテアソーム経路を応用した肺癌特異的新規樹状細胞癌ワクチン療法の開発	尾島敏康	外科学第二	520	補委 文部科学省
スタチン急性投与における内皮機能改善効果に及ぼす麻酔薬の影響	丹下和晃	麻酔科学	780	補委 文部科学省
妊娠高血圧時脳微小血管の血流調節機構の解明と麻酔薬作用に関する研究	堂城真友子	麻酔科学	780	補委 文部科学省
本態性高血圧症の圧受容体反射におけるストレス関連ペプチドの役割の解明	川邊哲也	教育研究開発センター(循環器内科)	910	補委 文部科学省
COPD増悪機序と制御の研究ー好中球活性化におけるtoll-like受容体の役割	小荒井晃	内科学第三	1,560	補委 文部科学省
Pyrin関連分子の血管内皮細胞における役割の解明と血管炎症候群における変異検索	中村智之	皮膚科学	2,340	補委 文部科学省
ループスエリテマトーデスの病態解明	吉益隆	皮膚科学	1,950	補委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
NOD2シグナルの過剰活性化による肉芽腫形成モデルの検証	金澤伸雄	皮膚科学	2,080	補委 文部科学省
食道癌に対する新規TLR-9agonistを併用した癌ワクチン療法の開発	勝田将裕	外科学第二	1,040	補委 文部科学省
アストロサイトのカルシウムオシレーションに対する揮発性麻酔薬の影響	吉村聖子	麻酔科学	520	補委 文部科学省
星状細胞内カルシウム濃度振動性変化による脳血流調節機構の解明	中畑克俊	麻酔科学	1,170	補委 文部科学省
揮発性全身麻酔薬が動的な心筋内微小灌流に与える効果に関する研究	根来孝明	麻酔科学	1,300	補委 文部科学省
難治性中耳炎におけるインフルエンザ菌のバイオフィルム形成に関する研究	竹井慎	耳鼻咽喉科学	1,690	補委 文部科学省
肺炎球菌性中耳炎における細菌のフェーズ変化と重症化病態の解明	上野ゆみ	耳鼻咽喉科学	1,300	補委 文部科学省
肺炎球菌表面抗原の解析と肺炎球菌の上気道粘膜定着阻止ワクチンの開発	酒井章博	耳鼻咽喉科学	1,820	補委 文部科学省
斜視手術後の外眼筋および筋周囲組織癒着化に関する研究	白井久美	眼科学	1,560	補委 文部科学省
Shh-Ang-Tie2を標的とした眼内血管新生疾患に対する新規治療戦略	宮本武	眼科学	1,170	補委 文部科学省
遺伝子導入によるTGFβシグナル阻害を戦略とした角膜内皮障害の予防法の探索	住岡孝吉	眼科学	780	補委 文部科学省
TGFベータ/Smadシグナルを標的とした皮膚の癒着化の薬物治療法の開発	木田真紀	救急・集中治療部	1,430	補委 文部科学省
甲状腺未分化癌におけるPodocalyxinとEMTの役割と治療応用に関する解析	児玉理恵子	皮膚科学	1,560	補委 文部科学省
不安定プラークと単球の関連性	柏木学	循環器内科	1,430	補委 文部科学省
細胞外器質分解産物による好中球性炎症拡大機序の解明	柳澤悟	内科学第三	1,430	補委 文部科学省
外来異物に対する皮膚反応におけるTRPV1の役割の解明	上中智香子	皮膚科学	2,080	補委 文部科学省
拡散テンソルによる神経認知機能障害の解明—双極性障害の神経発達仮説を越えて—	岩谷潤	神経精神医学	1,300	補委 文部科学省
消化器癌局所における新たな免疫パラダムTreg/Th17バランスの解明	飯田武	外科学第二	1,560	補委 文部科学省
膵癌浸潤過程における高発現遺伝子産物を応用した新規膵癌治療戦略	廣野誠子	外科学第二	2,210	補委 文部科学省

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
FEBS Letters	Ghrelin inhibits insulin secretion through the AMPK-UCP2 pathway in β cells	Ying Wang, Masahiro Nishi, Asako Doi, Takeshi Shono, Yasushi Furukawa, Takeshi Shimada, Hiroto Furuta, Hideyuki Sasaki, Kishio Nanjo	第一内科
Journal of Diabetes Investigation	Insulin gene mutations and diabetes	Masahiro Nishi, Kishio Nanjo	第一内科
Gastroenterological Endoscopy	経皮内視鏡的十二指腸瘻造設術を施行した胃垂全摘術後の1例	高木伴幸、加藤久子、中川貴之、坂頭節哉、塩路泰久、西野雅之、中野好夫、大西博信、若崎久生、中尾大成	第一内科
J Cardiol	Pathophysiology of acute coronary syndrome assessed by optical coherence tomography. Pathophysiology of acute coronary syndrome assessed by optical coherence tomography.	Akasaka T, Kubo T, Mizukoshi M, Tanaka A, Kitabata H, Tanimoto T, Imanishi T.	循環器内科
Catheter and Cardiovasc Interv	Advantage of next-generation frequency-domain optical coherence tomography compared with conventional time-domain system in the assessment of coronary lesion.	Takarada S, Imanishi T, Ishibashi K, Tanimoto T, Komukai K, Ino Y, Kitabata H, Kubo T, Tanaka A, Kimura K, Mizukoshi M, Akasaka T.	循環器内科
Am J Cardiol	Clinical classification and plaque morphology determined by optical coherence tomography in unstable angina pectoris.	Mizukoshi M, Imanishi T, Tanaka A, Kubo T, Liu Y, Takarada S, Kitabata H, Tanimoto T, Komukai K, Ishibashi K, Akasaka T.	循環器内科
Cardiovasc Interv and Ther	Optical coherence tomography imaging: current status and future perspectives.	Kubo T, Akasaka T	循環器内科

小計
7

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Am J Cardiol	Multiple coronary lesion instability in patients with acute myocardial infarction as determined by optical coherence tomography.	Kubo T, Imanishi T, Kashiwagi M, Ikejima H, Tsujioka H, Kuroi A, Ishibashi K, Komukai K, Tanimoto T, Ino Y, Kitabata H, Takarada S, Tanaka A, Mizukoshi M, Akasaka T.	循環器内科
Circ J	Upregulation of fractalkine and its receptor, CX3CR1, is associated with coronary plaque rupture in patients with unstable angina pectoris.	Ikejima H, Imanishi T, Tsujioka H, Kashiwagi M, Kuroi A, Tanimoto T, Kitabata H, Ishibashi K, Komukai K, Takeshita T, Akasaka T.	循環器内科
JACC Cardiovascular Imaging	Letter to the editor; very late stent thrombosis after drug-eluting stent in segment with neointimal tissue coverage.	Nishiguchi T, Kitabata H, Tanaka A, Kataiwa H, Ishibashi K, Komukai K.	循環器内科
Circ J	Post-reperfusion enhancement of CD14+CD16-monocytes and microvascular obstruction in ST-segment elevation acute myocardial infarction.	Tsujioka H, Imanishi T, Ikejima H, Tanimoto T, Kuroi A, Kashiwagi M, Okochi K, Ishibashi K, Komukai K, Ino Y, Kitabata H, Akasaka T.	循環器内科
JACC Cardiovasc Imaging	Very late clinical cardiac event after BMS implantation: in vivo optical coherence tomography examination.	Kashiwagi M, Kitabata H, Tanaka A, Okochi K, Ishibashi K, Komukai K, Tanimoto T, Ino Y, Takarada S, Kubo T, Hirata K, Mizukoshi M, Imanishi T, Akasaka T.	循環器内科

小計

5

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Am J Cardiol	Relation of microchannel structure identified by optical coherence tomography to plaque vulnerability in patients with coronary artery disease.	Kitabata H, Tanaka A, Kubo T, Takarada S, Kashiwagi M, Tsujioka H, Ikejima H, Kuroi A, Kataiwa H, Ishibashi K, Komukai K, Tanimoto T, Ino Y, Hirata K, Nobuo T, Nakamura N, Mizukoshi M, Imanishi T, Akasaka T.	循環器内科
Am Heart J	Serial angiographic findings and prognosis of stent fracture site without early restenosis after sirolimus-eluting stent implantation.	Ino Y, Toyoda Y, Tanaka A, Ishii S, Kusuyama Y, Kubo T, Takarada S, Kitabata H, Tanimoto T, Hirata K, Mizukoshi M, Imanishi T, Akasaka T.	
Atherosclerosis	Association of monocyte subset counts with coronary fibrous cap thickness in patients with unstable angina pectoris.	Imanishi T, Ikejima H, Tsujioka H, Kuroi A, Ishibashi K, Komukai K, Tanimoto T, Ino Y, Takeshita T, Akasaka T.	循環器内科
Euro Heart J	Expert review document on methodology, terminology, and clinical applications of optical coherence tomography: Physical principles, methodology of image acquisition, and clinical application for assessment of coronary arteries and atherosclerosis.	Prati F, Regar E, Mintz G. S., Arbustini E, Di Mario C, Jang, I-K, Akasaka T, Costa M, Guagliumi G, Grube E, Ozaki Y, Pinto F, Serruys P. W. J.	循環器内科
JACC Cardiovasc Interv	The effect of lipid and inflammatory profiles on the morphological changes of lipid-rich plaques in patients with non-ST-segment elevated acute coronary syndrome: follow-up study by optical coherence tomography and intravascular ultrasound.	Takarada S, Imanishi T, Ishibashi K, Tanimoto T, Komukai K, Ino Y, Kitabata H, Kubo T, Tanaka A, Kimura K, Mizukoshi M, Akasaka T.	循環器内科

小計

5

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Circ J	Assessment by optical coherence tomography of stent struts across side branch. - Comparison of bare-metal stents and drug-elution stents.	Liu Y, Imanishi T, Kubo T, Tanaka A, Kitabata H, Tanimoto T, Ino Y, Ikejima H, Tsujioka H, Komukai K, Ishibashi K, Kashiwagi M, Ozaki Y, Hirata K, Mizukoshi M, Akasaka T.	循環器内科
Circ J	What can we expect in PCI in patients with chronic coronary artery disease. - Indication of PCI for angiographically significant coronary artery Stenosis without objective evidence of myocardial ischemia (con).	Akasaka T.	循環器内科
JACC Cardiovasc Interv	Difference of culprit lesion morphologies between ST-segment elevation myocardial infarction and non-ST-segment elevation acute coronary syndrome: an optical coherence tomography study.	Ino Y, Kubo T, Tanaka A, Kuroi A, Tsujioka H, Ikejima H, Okouchi K, Kashiwagi M, Takarada S, Kitabata H, Tanimoto T, Komukai K, Ishibashi K, Kimura K, Hirata K, Mizukoshi M, Imanishi T, Akasaka T.	循環器内科
Int J Cardiol	Head to head comparison between the conventional balloon occlusion method and the non-occlusion method for optical coherence tomography.	Kataiwa H, Tanaka A, Kitabata H, Matsumoto H, Kashiwagi M, Kuroi A, Ikejima H, Tsujioka H, Okochi K, Tanimoto T, Yamano T, Takarada S, Nakamura N, Kubo T, Mizukoshi M, Hirata K, Imanishi T, Akasaka T.	循環器内科
ClinExpPharmacolPhysiol	Impact of human peripheral monocyte subsets on coronary flow reserve in infarcted-related artery in patients with primary anterior acute myocardial infarction.	Ikejima H, Imanishi T, Tsujioka H, Kuroi A, Kashiwagi M, Tanimoto T, Kitabata H, Hirata K, Akasaka T.	循環器内科

小計

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Eur Heart J.	First-in-human experience of real-time measurement of nitric oxide in coronary circulation.	Takarada S, Imanishi T, Goto M, Mochizuki S, Ikejima H, Tsujioka H, Kuroi A, Takeshita T, Akasaka T.	循環器内科
Atherosclerosis	Association of monocyte subsets with vulnerable characteristics of coronary plaques assessed by 64-slice computed tomographic angiography.	Kashiwagi M, Imanishi T, Tsujioka H, Ikejima H, Kuroi A, Ozaki Y, Ishibashi K, Komukai K, Tanimoto T, Ino Y, Kitabata H, Hirata K, Akasaka T.	循環器内科
Circ J	Association between circulating monocyte subsets and in-stent restenosis after coronary stent implantation in patients with ST-elevation myocardial infarction.	Liu Y, Imanishi T, Ikejima H, Tsujioka H, Kuroi A, Kashiwagi M, Ozaki Y, Tanimoto T, Ino Y, Kitabata H, Hirata K, Akasaka T.	循環器内科
Circ J	Clinical characteristics of patients with Kawasaki disease and levels of peripheral endothelial progenitor cells and blood monocyte subpopulations.	Kuroi A, Imanishi T, Suzuki H, Ikejima H, Tsujioka H, Yoshikawa N, Akasaka T.	循環器内科
Circulation	Prevalence and clinical significance of papillary muscle infarction detected by late-gadolinium-enhanced magnetic resonance imaging in patients with ST-segment elevation myocardial infarction.	Tanimoto T, Imanishi T, Kitabata H, Nakamura N, Kimura K, Yamano T, Ishibashi K, komukai K, Ino Y, Takarada S, kubo T, Hirata K, Mizukoshi M, Tanaka A, Akasaka T	循環器内科

小計

5

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
J Am SocEchocardiogr	Advantage of right ventricular outflow tract pacing on cardiac function and coronary circulation in comparison with right ventricular apex pacing.	Yamano T, Kubo T, Takarada S, Ishibashi K, Komukai K, Tanimoto T, Ino Y, Kitabata H, Hirata K, Tanaka A, Imanishi T, Akasaka T.	循環器内科
Neurocase 16	Evaluation of regional cerebral blood flow in a patient with musical hallucinations.	正山勝	神経精神科
和歌山医学 61	長期入院中の統合失調症患者の認知機能障害、社会・生活機能障害と作業療法参加との関係の検討	岸上雅彦	神経精神科
J Clin Neurosci.	Analysis of factors affecting the long-term functional outcome of patients with skull base meningioma	中尾直之、他	脳神経外科
J Clin Neurosci.	Surgical outcome of the endoscopic endonasal approach for non-functioning giant pituitary adenoma	中尾直之、他	脳神経外科
Clin Neurol Neurosurg	Surgical treatment and outcome of skull base meningiomas with extracranial extensions.	中尾直之、他	脳神経外科
Movement Disorder	Cortically evoked responses of human pallidal neurons recorded during stereotactic neurosurgery	西林宏起、他	脳神経外科
Annals of Thorac Surgery	Patch repair of a giant left ventricular pseudoaneurysm after mitral valve replacement.	Honda K, Okamura Y, Nishimura Y, Hayashi H	第一外科
Anticancer Reserch	Is class III beta-tublin a true predictive marker of sensitivity to vinorelbine in nonsmall cell lung cancer? Chemosensitivity data evidence.	Hirai Y, Yoshimasu T, Oura S, Ota F, Naito K, NishiguchiH, Hashimoto S, Okamura Y	第一外科
General Thorac and Cardiovascular Surgery	Comparison of the waveforms of transittime flowmetry and intraoperative fluorescence imaging for assessing coronary artery bypass graft patency.	Hatada A, Okamura Y, Kaneko M, Hisaoka T, Yamamoto S, Hiramatsu T, Nishimura Y	第一外科
Interactive CardioVascular and Thoracic Surgery	Twenty-six-year durability of an Ionescu-Shiley standard prfile pericardial aortic valve.	Honda K, Okamura Y, Nishimura Y, Uchita S	第一外科

小計

11

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery	Mediastinal germ cell tumor with acute myeloid leukemia and growing teratoma syndrome.	Hirai Y, Yoshimasu T, Oura S, Okamura Y	第一外科
癌と化学療法	乳癌術後補助化学療法としてのTC (Docetaxel/Cyclophosphamide) 療法の忍容性	内藤古真, 尾浦正二, 吉増達也, 中村理恵, 平井慶充, 清井めぐみ, 宮坂美和子, 岡村吉隆	第一外科
乳癌の臨床	術前化学療法後乳癌症例の非センチネルリンパ節への転移予測にMD Anderson Cancer Centerのneoadjuvant motherapy sentinel lymph node nomogramを使用する事の妥当性の検討	宮坂美和子, 尾浦正二, 吉増達也, 中村理恵, 平井慶充, 内藤古真, 清井めぐみ, 岡村吉隆	第一外科
和歌山医学	肺悪性腫瘍切除例におけるKL-6とSP-Dの消失速度の測定	吉増達也, 尾浦正二, 平井慶充, 内藤古真, 宮坂美和子, 中村理恵, 清井めぐみ, 太田文典, 川後光正, 岡村吉隆	第一外科
和歌山医学	ラジオ波熱凝固療法を施行した乳腺管状癌の1例	内藤古真, 尾浦正二, 吉増達也, 玉置剛司, 中村理恵, 平井慶充, 清井めぐみ, 宮坂美和子, 中村靖司, 岡村吉隆	第一外科
Mol Cancer. 9:59, 2010	Overexpression of the JmjC histone demethylase KDM5B in human carcinogenesis: involvement in the proliferation of cancer cells through the E2F/RB pathway.	Hayami S	第二外科
J Hepatobiliary Pancreat Sci. 17 (6): 803-7, 2010	Middle pancreatectomy for pancreatic neoplasms.	Hirono S	第二外科
Cancer Sci. 101 (1): 259-66, 2010	Molecular markers associated with lymph node metastasis in pancreatic ductal adenocarcinoma by genome-wide expression profiling.	Hirono S	第二外科
Pancreas. 39 (4): 473-85, 2010	Identifying molecular markers for chemosensitivity to gemcitabine in pancreatic cancer: increased expression of interferon-stimulated gene 15 kd is associated with intrinsic chemoresistance.	Ina S	第二外科
Cancer Sci. 101 (12): 2510-7, 2010	Vaccination with peptides derived from cancer-testis antigens in combination with CpG-7909 elicits strong specific CD8+ T cell response in patients with metastatic esophageal squamous cell carcinoma.	Iwahashi M	第二外科

小計

10

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Gastric Cancer. 13 (4): 238-44, 2010	Safety and feasibility of laparoscopy-assisted distal gastrectomy with suprapancreatic nodal dissection for clinical stage I gastric cancer: a multicenter phase II trial (JCOG 0703).	Katai H	第二外科
Am J Surg. 199 (4): 447-52, 2010	he ratio between metastatic and examined lymph nodes is an independent prognostic factor for patients with resectable middle and distal bile duct carcinoma.	Kawai M	第二外科
Surg Today. 40 (11): 1011-7, 2010	Analysis of clinical trials evaluating complications after pancreaticoduodenectomy: a new era of pancreatic surgery.	Kawai M	第二外科
J Med Case Reports. 4: 8, 2010	Hemangiopericytoma in the sacrococcygeal space: a case report.	Kitahata Y	第二外科
Langenbecks Arch Surg. 395 (3): 235-9, 2010	Clinicopathological features of anastomotic recurrence after an anterior resection for rectal cancer.	Matsuda K	第二外科
Cancer Sci. 101 (2): 433-9, 2010	Phase I clinical trial using peptide vaccine for human vascular endothelial growth factor receptor 2 in combination with gemcitabine for patients with advanced pancreatic cancer.	Miyazawa M	第二外科
Exp Mol Pathol. 89 (2): 149-57, 2010	SNAIL induces epithelial-to-mesenchymal transition in a human pancreatic cancer cell line (BxPC3) and promotes distant metastasis and invasiveness in vivo.	Nishioka R	第二外科
J Gastrointest Surg. 14 (2): 277-81, 2010	Clinicopathological characteristics of remnant gastric cancer after a distal gastrectomy.	Ojima T	第二外科
Surg Today. 40 (10): 972-4, 2010	Rectal obstruction by a giant pharmacobezoar composed of magnesium oxide: report of a case.	Shigekawa Y	第二外科
Pancreas. 39 (6): 879-83, 2010	MUC1 is a useful molecular marker for malignant intraductal papillary mucinous neoplasms in pancreatic juice obtained from endoscopic retrograde pancreatography.	Shimamoto T	第二外科
Am J Surg. 199 (6): 759-64, 2010	A prospective randomized controlled trial of internal versus external drainage with pancreaticojejunostomy for pancreaticoduodenectomy.	Tani M	第二外科

小計

11

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Cancer. 126 (7): 1691-701, 2010	Combination of p53 codon 72 polymorphism and inactive p53 mutation predicts chemosensitivity to 5-fluorouracil in colorectal cancer.	Tominaga T	第二外科
World J Surg. 34 (12): 2953-9, 2010	Combined use of contrast-enhanced intraoperative ultrasonography and a fluorescence navigation system for identifying hepatic metastases.	Uchiyama K	第二外科
BMC Surg. 10: 8, 2010	Moderately differentiated colorectal adenocarcinoma as a lymph node metastatic phenotype: comparison with well differentiated counterparts.	Yokoyama S	第二外科
Eur J Surg Oncol. 36 (6): 546-51, 2010	A phase II study of preoperative chemotherapy with S-1 plus cisplatin followed by D2/D3 gastrectomy for clinically serosa-positive gastric cancer (JACCRO GC-01 study).	Yoshikawa T	第二外科
Int J Cancer. 128 (3): 574-86, 2011	Overexpression of LSD1 contributes to human carcinogenesis through chromatin regulation in various cancers.	Hayami S	第二外科
Dis Colon Rectum. 54 (4): 495-500, 2011	Rectal transection by the Nelaton catheter pulling method during a laparoscopic low anterior resection.	Hotta T	第二外科
Int J Cancer. 129 (6): 1351-61, 2011	Re-expression of CEACAM1 long cytoplasmic domain isoform is associated with invasion and migration of colorectal cancer.	Ieda J	第二外科
Oncol Rep. 25 (5): 1271-7, 2011	Tumor-infiltrating CD4+ Th17 cells produce IL-17 in tumor microenvironment and promote tumor progression in human gastric cancer.	Iida T	第二外科
World J Surg. 35 (7): 1573-9, 2011	Optimal period for the prophylactic administration of neutrophil elastase inhibitor for patients with esophageal cancer undergoing esophagectomy.	Iwahashi M	第二外科
J Hepatobiliary Pancreat Sci. 18 (4): 601-8, 2011	Predictive risk factors for clinically relevant pancreatic fistula analyzed in 1,239 patients with pancreaticoduodenectomy: multicenter data collection as a project study of pancreatic surgery by the Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery.	Kawai M	第二外科

小計

10

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Ann Surg. 253 (3): 495-501, 2011	Pylorus ring resection reduces delayed gastric emptying in patients undergoing pancreatoduodenectomy: a prospective, randomized, controlled trial of pylorus-resecting versus pylorus-preserving pancreatoduodenectomy.	Kawai M	第二外科
Am Surg. 77 (5): 602-7, 2011	Lymph nodes ratio is associated with the survival of colorectal cancer patients with peritoneal carcinomatosis.	Matsuda K	第二外科
Cancer Lett. 305 (1): 32-9, 2011	Dendritic cells adenovirally-transduced with full-length mesothelin cDNA elicit mesothelin-specific cytotoxicity against pancreatic cancer cell lines in vitro.	Miyazawa M	第二外科
Am Surg. 77 (2): 174-9, 2011	A laparoscopic splenectomy allows the induction of antiviral therapy for patients with cirrhosis associated with hepatitis C virus.	Shigekawa Y	第二外科
J Gastrointest Surg. 15 (8): 1401-10, 2011	Influence of visceral obesity for postoperative pulmonary complications after pancreaticoduodenectomy.	Shimizu A	第二外科
J Hepatobiliary Pancreat Sci. 18 (1): 67-73, 2011	Risk factors for postoperative infectious complications after hepatectomy.	Uchiyama K	第二外科
J Hepatobiliary Pancreat Sci. 18 (3): 443-52, 2011	Impact of nodal involvement on surgical outcomes of intrahepatic cholangiocarcinoma: a multicenter analysis by the Study Group for Hepatic Surgery of the Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery.	Uchiyama K	第二外科
BMC Gastroenterol. 11: 67, 2011	Endoscopic resection of duodenal bulb neuroendocrine tumor larger than 10 mm in diameter.	Yokoyama S	第二外科
日本内視鏡外科学会雑誌	運動器疾患に対する内視鏡下手術のupdate 脊椎内視鏡手術の現状	吉田 宗人	整形外科
日本内視鏡外科学会雑誌	内視鏡を用いた脊椎、脊髄低侵襲手術MED手術の適応拡大と手術成績10年2500例の経験から。	吉田 宗人	整形外科
日本手外科学会雑誌	変形性遠位橈尺関節症に合併した伸筋腱皮下断裂の特徴的X線所見。	谷口 泰徳	整形外科
Journal of Spine Research	L5-S1腰椎椎間孔部狭窄症の手術術式の再考。	山田 宏	整形外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本整形外科学会雑誌	腰椎椎間孔部狭窄症の神経圧迫様式からみた手術術式の再考.	山田 宏	整形外科
日本整形外科学会雑誌	腰仙椎移行部の椎間孔外狭窄における腰仙靭帯の関与について—解剖学および病理組織学的検討—	山田 宏	整形外科
中部日本整形外科災害外科	頸部脊髄症患者に対する内視鏡下頸椎後方除圧術の臨床成績.	南出 晃人	整形外科
Eur Spine J	Clinical outcomes of microendoscopic decompression surgery for cervical myelopathy.	南出 晃人	整形外科
日本整形外科学会雑誌	腰椎変性すべり症に対する手術方法別による臨床成績の比較 内視鏡下除圧術と固定術.	南出 晃人	整形外科
Journal of Spine Research	高齢者脊椎疾患に対する手術戦略 頸椎症性脊髄症 高齢者の頸椎症性脊髄症に対する内視鏡下後方除圧術の有用性の検討.	南出 晃人	整形外科
Journal of Spine Research	培養未分化間葉系幹細胞の脊椎固定術におけるBMP-2とbasic FGFの及ぼす影響.	南出 晃人	整形外科
臨床脳波	術中脊髄機能モニタリングと今後の課題.	中川 幸洋	整形外科
Journal of Spine Research	高齢者腰部脊柱管狭窄症—後方内視鏡下除圧術の成績とその病態について.	中川 幸洋	整形外科
日本人工関節学会誌	ハイブリッド人工股関節全置換術におけるトラネキサム酸の止血効果	宮崎 展行	整形外科
Hip Joint	THAにおける外旋筋温存後方アプローチの経験.	宮崎 展行	整形外科
骨折	MIP0を用いた小児大腿骨骨折の治療経験.	宮崎 展行	整形外科
中部日本整形外科災害外科	反復性膝蓋骨脱臼にsuture anchorを用いたMPFL再建術の経験.	宮崎 展行	整形外科
Japanese Journal of Rehabilitation Medicine Vol. 47 No. 5	障害者スポーツ医学の最先端 —存残骨格筋は内分泌器官である—	田島 文博	リハビリテーション科

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
和歌山医学 第61巻 第 4号 別冊	機能衣服着用時肩・股関節部分の 三次元動作解析による検討	後藤 健太	リハビリテー ション科
和歌山医学 第61巻 第 4号 別冊	サポーター機能付き着衣装着時の 運動時消費カロリーと脂肪消費量	伊藤 倫之	リハビリ テーション科
日本臨床スポーツ医学会 誌19巻2号	北京パラリンピックにおける メ ディ カ ル サ ポ ー ト	鳥取部 光司	リハビリ テーション科
Japanese Journal of Rehabilitation Medicine Vol. 16 No. 7	学 生 ・ 初 期 研 修 医 に 対 す る 教 育 ・ 広 報	中村 健	リハビリ テーション科
Arch Phys Med Rehabil Vol. 91	Longitudinal Changes in Physical Capacity Over 20 Years in Athletes With Spinal Cord Injury	芝 寿実子	リハビリテー ション科
重篤副作用疾患別対応 マニュアル 第4集	薬 剤 に よ る 接 触 皮 膚 炎	飯島正文、橋本公 二、 塩原哲夫、松永佳 世子、古川福実他	皮膚科
今日の治療指針2010	限 局 性 強 皮 症	古川福実	皮膚科
皮膚外科学 日本皮膚外科学会監修	ケ ミ カ ル ピ ー リ ン グ	山本有紀	皮膚科
ファーストステップ 皮 膚免疫学	エリテマトーデスの臨床像と メ カ ニ ズ ム	池田高治、 古川福実	皮膚科
日本皮膚アレルギー 接触皮膚炎学科雑誌	トリクロロ酢酸ピーリングによる成長 因子・サイトカインの誘導	米井 希、金澤伸 雄、 大谷稔男、古川福 実、 山本有紀	皮膚科
小児内科	川 崎 病	古川福実、 伊豆邦夫、 橋爪秀夫	皮膚科
日本皮膚アレルギー 接触皮膚炎学科雑誌	自 己 炎 症 疾 患	金澤伸雄	皮膚科
医学のあゆみ	進化するケミカルピーリング 美容から皮膚癌まで	山本有紀、 古川福実	皮膚科

小計

13

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本小児皮膚科学会雑誌	凍瘡様皮疹と限局性脂肪萎縮を伴う自己炎症疾患である家族性日本熱（中條－西村症候群）	金澤伸雄、古川福実、松中成浩、小池通夫、杉野禮俊	皮膚科
日本医事新報	早期皮膚癌のフェノールを用いたピーリング療法	上中智香子、山本有紀	皮膚科
日本臨床免疫学会雑誌	ループモデルマウスによる皮膚ループスの病態解明	古川福実、吉益隆、金澤伸雄	皮膚科
Monthly Book Derma	面皰治療のコツ2：ケミカルピーリング	山本有紀、米井希、上中智香子、古川福実	皮膚科
細胞	Blau / EOSの病態から炎症を考える	金澤伸雄	皮膚科
日本美容皮膚科学会雑誌	ケミカルピーリングと皮膚ストレス応答システム（SSRS）	木村文子、金澤伸雄、李洪錦、米井希、山本有紀、古川福実	皮膚科
大阪保険医雑誌	美容皮膚科の現状とこれから	古川福実	皮膚科
医学のあゆみ	中條－西村症候群	井田弘明、金澤伸雄	皮膚科
医学のあゆみ	Blau/EOS：肉芽腫形成性自己炎症疾患	金澤伸雄	皮膚科
日本皮膚科学会雑誌	ざ瘡とその治療、そして美容皮膚科の現状と展望；ケミカルピーリングガイドライン概説	山本有紀	皮膚科
日本皮膚科学会雑誌	若年発症サルコイドーシス・Blau症候群とNOD2変異	金澤伸雄	皮膚科
J Dermatol	A case of anti-laminin- γ 1 pemphigoid associated with psoriatic erythroderma	Chikako K, Takeshi N, Nobuo K, Fukumi F, Takashi H	皮膚科
J Biol Chem	Constitutively active inflammasome in human melanoma cells mediating autoinflammation via caspase-1 processing and secretion of interleukin-1 β	Okamoto M, Liu W, Luo Y, Tanaka A, Cai X, Norris DA, Dinarello CA, Fujita M	皮膚科

小計

13

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
J Dermatol	Successful treatment with trichloroacetic acid for inflammatory linear verrucous epidermal nevus: a case report	Seiko T, Yuki Y, Chikako K, Akiko K, Nozomi Y, Fukumi F	皮膚科
Acta Histochem Cytochem	Immunohistochemical analysis of CXCR4 expression in fibrohistiocytic tumors	Seiko T, Yuki Y, Yuko I, Toshikazu K, Yasushi N, Fukumi F	皮膚科
Clin Exp Dermatol	Preliminary Study of Etidronate for Prevention of Corticosteroid-induced Osteoporosis Due to Oral Glucocorticoid Therapy	Furukawa F, Kaminaka C, Ikeda T, Kanazawa N, Yamamoto Y, Ohta C, Nishide T, Tsujioka K, Hattori M, Uede K, Hata M	皮膚科
Aesthet Dermatol	Prednisolone therapy for auricular hematomas in dogs and cats: effects and cosmetic outcome on the basis of intrinsic etiology	Jiro Kuwahara	皮膚科
J Dermatol	A case of progressive nodular histiocytosis	Kayo Kunimoto, Koji Uede, Fukumi Furukawa	皮膚科
新薬と臨床	湿疹・皮膚炎群に対するルリクールVG軟膏の有用性に関する検討	吉益 隆、古川福実	皮膚科
日本臨床皮膚科学会雑誌	和歌山県皮膚病無料相談1999年から2009年の統計	岡本勝行、金澤伸雄、山本有紀、古川福実、瀬川陽一、森庸亮	皮膚科
日本美容皮膚科学会雑誌	新規角層剥離用粘着テープの性能評価-ラット背部皮膚における角層剥離量と経皮水分蒸散量-	辰野智子、木村文子、山本有紀、古川福実	皮膚科
日本美容皮膚科学会雑誌	アトピー性皮膚炎患者の顔面および頸部の皮疹に対する基礎化粧品の使用試験	上出三起子、上中智香子、山本有紀、古川福実	皮膚科
臨床皮膚科	疣状の外観を呈した乳輪下膿瘍の1例	国本佳代、西山瑞穂、上中智香子、貴志知生、山本有紀、古川福実、高木正	皮膚科

小計

10

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Visual Dermatology	エタネルセプトによる皮膚ループスエリテマトーデス	服部舞子、西出武司、山内康平	皮膚科
皮膚病診療	膿疱性乾癬の皮疹部に発生した有棘細胞癌の1例	上中智香子 岡本勝行 金澤伸雄 山本有紀 古川福実	皮膚科
皮膚病診療	小児の内果に生じた悪性黒色腫の治療経験および本邦小児悪性黒色腫報告26例の検討	石黒真理子、岡本勝行、山本有紀、中村靖司、古川福実	皮膚科
新薬と臨床	アトピー性皮膚炎に対する抗ヒスタミン薬の有用性の検討 —患者意識調査による評価—	古川福実、金澤伸雄、石黒真理子、中村智之、西出武司、太田智秋、吉益隆	皮膚科
医薬の門	顕微鏡的多発血管炎：発症初期の治療導入例。血管炎症例報告 皮膚血管炎と血管障害（2）	木村文子	皮膚科
医薬の門	C型肝炎に伴った例。血管炎症例報告 皮膚血管炎と血管障害（3）	大谷稔男	皮膚科
医薬の門	持久性隆起性紅班：リウマチ性丘疹と鑑別を要した例。血管炎症例報告 皮膚血管炎と血管障害（4）	上出康二	皮膚科
平成21年度 総括・分担研究報告書	厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 中條一西村症候群の疾患概念の確立と病態解明へのアプローチ	研究代表者 古川 福実	皮膚科
Hinyokika Kiyo. 2011 Mar;57(3):157-61.	The prognostic significance of human equilibrative nucleoside transporter1 (hENT1) expression in metastatic bladder cancer patients treated with gemcitabine-cisplatin based combination chemotherapy].	Matsumura N, Hara I.	泌尿器科
Hinyokika Kiyo. 2011 Mar;57(3):151-2.	[Chemotherapy for urological cancer : usefulness and feasibility of current protocols].	Hara I, Motoo Y.	泌尿器科
BJU Int. 2011 Sep;108(6):914-21.	IL-23 gene therapy for mouse bladder tumour cell lines.	Kuramoto T, Fujii R, Nagai H, Belladonna ML, Yoshimoto T, Kohjimoto Y, Inagaki T, Hara I.	泌尿器科

小計

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Hinyokika Kiyo. 2011 Jan;57 (1) :43-47	Metabolic Syndrome andNephrolithiasis.	Kohjimoto Y, Iba A, Sasaki Y, Hara I.	泌尿器科
Hinyokika Kiyo. 2010 Nov;56 (11) :625-8	Extra-adrenal pheochromocytoma with the manifestation of catecholamines cardiomyopathy: a case report	Kuramoto T, Nishizawa S, Fujii R, Nanpou Y, Matsumura N, Inagaki T, Kohjimoto Y, Hara I.	泌尿器科
BJU Int. 2010 Dec 16.	The prognostic significance of human equilibrative nucleoside transporter 1 expression in patients with metastatic bladder cancer treated with gemcitabine- cisplatin-based combination chemotherapy.	Matsumura N, Nakamura Y, Kohjimoto Y, Inagaki T, Nanpo Y, Yasuoka H, Ohashi Y, Hara I.	泌尿器科
Int J Urol. 2010 Dec;17 (12) :996-1003.	Calcium oxalate crystal deposition in metabolic syndrome model rat kidneys.	Okamoto M, Kohjimoto Y, Iba A, Saji F, Hara I, Shigematsu T.	泌尿器科
BJU Int. 2010 Nov;106 (10) :1550-4.	Insulin resistance increases the risk of urinary stone formation in a rat model of metabolic syndrome.	Iba A, Kohjimoto Y, Mori T, Kuramoto T, Nishizawa S, Fujii R, Nanpo Y, Matsumura N, Shintani Y, Inagaki T, Hara I.	泌尿器科
World J Urol. 2010 Aug;28 (4) :425-30.	Impact of patientage on outcome following bladder-preserving treatment for non-muscle-invasive bladder cancer.	Kohjimoto Y, Iba A, Shintani Y, Inagaki T, Uekado Y, Hara I.	泌尿器科
Cornea.	Cornea and Sclera: Anatomy and Physiology	Teruo Nishida, Shizuya Saika	眼科
Cornea.	A Therapeutic Target in Retrocorneal Membrane.	Miyamoto T, Sumioka S, Saika S	眼科
Eye Contact Lens.	Transforming growth factor beta signal transduction: a potential target for maintenance/restoration of transparency of the cornea. Eye	Saika S, Yamanaka O, Sumioka T, Okada Y, Miyamoto T, Shirai K, Kitano A, Tanaka S	眼科

小計

9

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Histol Histopathol.	Neurotrophic keratopathy; its pathophysiology and treatment.	Okada Y, Reinach PS, Kitano A, Shirai K, Kao WW, Saika S.	眼科
J Cataract Refract Surg	Immunohistochemical observation of anterior subcapsular cataract in eye with spontaneously regressed retinoblastoma.	Shirai K, Okada Y, Saika S:	眼科
Mol Vis.	Suppression of injury-induced epithelial-mesenchymal transition in a mouse lens epithelium lacking tenascin-C	Tanaka S, Sumioka T, Fujita N, Kitano A, Okada Y, Yamanaka O, Flanders KC, Miyajima M, Saika S	眼科
臨床眼科	生体吸収性骨固定プレートを用いた Kroenlein 手術の1例.	宮崎賢一、藤田識人、友寄勝夫、田中才一、山中修、森田展雄、雑賀司珠也	眼科
臨床眼科	双生児にみられた網膜血管走行異常	宮崎賢一、山中修、河島義治、雑賀司珠也	眼科
Invest Ophthalmol Vis Sci.	Impaired angiogenic response in the corneas of mice lacking osteopontin.	Fujita N, Fujita S, Okada Y, Fujita K, Kitano A, Yamanaka O, Miyamoto T, Kon S, Uede T, Rittling SR, Denhardt DT, Saika S	眼科
Mol Vis	Therapeutic potential of trichostatin A to control inflammatory and fibrogenic disorders of the ocular surface.	Kitano A, Okada Y, Yamanka O, Shirai K, Mohan RR, Saika S	眼科
J Pediatr Ophthalmol Strabismus.	Two Cases of Congenital Retrobulbar Cyst or Peripapillary Staphyloma with an Alcoholic Mother.	Kitano A, Shirai K, Okada Y, Saika S	眼科
臨床眼科	生体吸収性骨固定プレートを用いた Kroenlein 手術の1例	宮崎賢一、藤田識人、友寄勝男、田中才一、山中修、森田展雄、雑賀司珠也	眼科
眼科臨床紀要	インスリン治療後早期に一過性の調節障害を呈した小児1型糖尿病の一例	白井久美、岡田由香、北野愛、小久保奈津、乙井あや、松田幸恵、遠藤佳子、雑賀司珠也	眼科

小計

10

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
眼科臨床紀要	自己強膜片移植を行った角膜穿孔症例	北野愛, 岡田由香, 白井久美, 雑賀司珠也	眼科
眼科臨床紀要	球後麻酔による一過性の眼球運動障害がみられた2症例	住岡孝吉, 岡田由香, 雑賀司珠也	眼科
眼科臨床紀要	抗菌薬を用いて外来通院で保存的に治療した遅発性術後眼内炎の7症例	宮崎賢一, 山中修, 井上喜久彦, 住岡孝吉, 西本周子, 雑賀司珠也	眼科
耳鼻咽喉科展望	成人急性咽頭・扁桃炎に対するガレノキサシン (GRNX) の有用性に関する検討	山中昇, 保富宗城, 戸川彰久, 池田頼彦, 田村真司	耳鼻咽喉科
日本耳鼻咽喉科学会会報	成人急性鼻副鼻腔炎のスコアリングシステムと重症度分類の検討	山中昇, 保富宗城, 戸川彰久, 竹井慎, 河野正充	耳鼻咽喉科
日本耳鼻咽喉科感染症研究会会報	小児急性中耳炎に対するテビペネム (TBPM-PI) の有用性 CDTR-PI高容量との多施設共同二重盲検比較試験の成績から	鈴木賢二, 山中昇, 馬場駿吉, 生方公子, 戸塚恭一, 砂川慶介	耳鼻咽喉科
耳鼻咽喉科臨床	PETにて発見されたCEA高値甲状腺腫瘍様癌例	河野正充, 保富宗城, 鈴木正樹, 山内一真, 荒井潤, 小山真史, 田村真司, 藤原啓次, 山中昇	耳鼻咽喉科
耳鼻咽喉科臨床	耳鼻咽喉科における内視鏡の洗浄・消毒方法の検討	藤原啓次, 戸川彰久, 小上真史, 竹井慎, 池田頼彦, 保富宗城, 田村真司, 山中昇	耳鼻咽喉科

小計

8

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Auris Nasus Larynx	Haemophilus influenzae and haemophilus haemolyticus in tonsillar cultures of adults with acute pharyngotonsillitis.	Hotomi M, Kono M, Togawa A, Arai J, Takei S, Ikeda Y, Ogami M, Murphy TF, Yamanaka N	耳鼻咽喉科
Auris Nasus Larynx	Nontypeable Haemophilus influenzae isolated from intractable acute otitis media internalized into cultured human epithelial cells.	Hotomi M, Arai J, Billal DS, Takei S, Ikeda Y, Ogami M, Kono M, Beder LB, Toya K, Kimura M, Yamanaka N	耳鼻咽喉科
Eur J Pediatr	A comparison of conventional and molecular microbiology in detecting differences in pneumococcal colonization in healthy children and children with upper respiratory illness.	Ogami M, Hotomi M, Togawa A, Yamanaka N	耳鼻咽喉科
J Clin Microbiol	Streptococcus pneumoniae isolated from middle ear fluid and nasopharynx of children with acute otitis media exhibit phase variation.	Arai J, Hotomi M, Hollingshead SK, Ueno Y, Briles DE, Yamanaka N	耳鼻咽喉科
International Journal of Sport Dentistry	The Effect on Brain Activity of Clenching with a Bite Plate Increasing Occlusal Vertical Dimension to Mandibular Rest Position: a Functional MRI Study.	Reiko Ishida, Yoshinobu Iwagami, Takeshi Hamachi, Tazuko K. Goto, Yoshihisa Watanabe, Takeshi Wada, Yoshiyuki Taniguchi, Matthew Nielsen, Osamu Takizawa, Yasukazu Hamada, Shigeyuki Fujita, and Morio Sato	放射線科
Clinical Nuclear Medicine	Pleomorphic carcinoma of the lung with intrapulmonary aerogenic metastases on FDG PET.	Tetsuo Sonomura, Yasutaka Noda, Morio Sato, Hiroki Sanda, Seigo Ishii, Nobuyuki Kawai, Hiroki Minamiguchi, Motoki Nakai, Taizo Takeuchi, Isao Takasaka, Kazushi Kishi	放射線科

小計

6

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
International Journal of Radiation Oncology	Feasibility and efficacy of single photon emission computed tomography-based three-dimensional conformal radiotherapy for hepatocellular carcinoma 8 cm or more with portal vein tumor thrombus in combination with transcatheter arterial chemoembolization.	Shirai S, Sato M, Suwa K, Kishi K, Shimono C, Sonomura T, Kawai N, Tanihata H, Minamiguchi H, Nakai M	放射線科
Cardiovasc Intervent Radiol	Repair of Traumatic Abdominal Aortic Pseudoaneurysm Using N-Butyl-2-Cyano-Acrylate Embolization.	Nobuyuki Kawai, Morio Sato, Hirohiko Tanihata, Shinya Sahara, Isao Takasaka, Hiroki Minamiguchi, Motoki Nakai	放射線科
Jpn J Radiol	Triple-phase computed tomography during arterial portography with bolus tracking for hepatic tumors.	5. Motoki Nakai, Morio Sato, Akira Ikoma, Kohei Nakata, Shinya Sahara, Isao Takasaka, Hiroki Minamiguchi, Nobuyuki Kawai, Tetsuo Sonomura, Kazushi Kishi	放射線科
Cardiovasc Intervent Radiol	A New Soluble Gelatin Sponge for Tra	Isao Takasaka, Nobuyuki Kawai, Morio Sato, Shinya Sahara, Hiroki Minamiguchi, Motoki Nakai, Akira Ikoma, Kohei Nakata, Tetsuo Sonomura	放射線科
Jpn J Radiol	Prospective comparison of transcatheter arterial chemoembolization with Lipiodol-epirubicin and Lipiodol-cisplatin for treatment of recurrent hepatocellular carcinoma.	Shinya Sahara, Nobuyuki Kawai, Morio Sato, Hiroki Minamiguchi, Motoki Nakai, Isao Takasaka, Kohei Nakata, Akira Ikoma, Munehisu Sawa, Tetsuo Sonomura, Shintaro Shirai	放射線科

小計

5

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Cardiovasc Intervent Radiol	Ischemic Effects of Transcatheter Arterial Embolization with N-Butyl Cyanoacrylate-Lipiodol on the Colon in a Swine Model.	Akira Ikoma, Nobuyuki Kawai, Morio Sato, Tetsuo Sonomura, Hiroki Minamiguchi, Motoki Nakai, Isao Takasaka, Kouhei Nakata, Shinya Sahara, Munehisa Sawa, Shintaro Shirai, Ichiro Mori	放射線科
Cardiovasc Intervent Radiol	Comparison of Hemostatic Durability between N-Butyl Cyanoacrylate and Gelatin Sponge Particles in Transcatheter Arterial Embolization for Acute Arterial Hemorrhage in a Coagulopathic Condition in a Swine Model	Takafumi Yonemitsu, Nobuyuki Kawai, Morio Sato, Tetsuo Sonomura, Isao Takasaka, Motoki Nakai, Hiroki Minamiguchi, Shinya Sahara, Yasuhiro Iwasaki, Toshio Naka	放射線科
Jpn J Radiol	Fibroadenoma of the axillary accessory breast: diagnostic value of dynamic magnetic resonance imaging.	Munehisa Sawa, Nobuyuki Kawai, Morio Sato, Taizo Takeuchi, Takeshi Tamaki, Shoji Oura	放射線科
EUR J Histochem, 54 (3) ;e34, 2010	Expression of lumican related to CD34 and LEGF in the articular disc of the human temporomandibular joint.	木賀 紀文	歯科口腔外科
EUR J Histochem, 54 (4) ;e50, 2010	Expression of hyaluronan synthase 3 in deformed human temporomandibular joint discs in vivo and in vitro studies.	松本 隆司	歯科口腔外科
Minerva Anesthesiol	Cerebral oxygenation in the beach chair position before and during general anesthesia.	丹下和晃	麻酔科
J Pharmacol Exp Ther	The modulation of vascular ATP-sensitive K ⁺ channel function via phosphatidylinositol 3-kinase-Akt pathway activated by phenylephrine.	羽場政法	地域医療学講座
Can J Anesth	Sevoflurane does not alter norepinephrine-induced intracellular Ca ²⁺ changes in the diabetic rat aorta.	藤井啓介	教育研究開発センター

小計

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Int J Obstet Anesth	Exacerbation of acetazolamide-responsive sodium channel myotonia by uterotonic agents.	藤井啓介	教育研究開発センター
parkinsonism & Related Disorders 16	Conjugal parkinsonism:multiple system atropy and parkinsons disease.	Hideto Miwa	神経内科
International Review of Neurobiology 90c	Transcranial sonography in relation to SPECT and MIBG.	Yoshinori Kajimoto	神経内科
Cerebellum	T-type calcium channel as a new therapeutic target for tremor.	Hideto Miwa	神経内科
Parkinsonism & Related Disorders 16.	Hiccups in Parkinsons disease : an overlooked non -motor symptom?	Hideto Miwa	神経内科
Parkinsonism & Related Disorders.	Authors reply to the comment of Giugni et al. on "Hiccups in Parkinsons desease :an overlooked non - motorsymton?"	Hideto Miwa	神経内科
Pharmacology Biochemistry & Behavior 97	Effects of T-type calcium channel blockers on a parkinsonism tremor model in rats.	Hideto Miwa	神経内科
Parkinsonism & Related Disorders	White matter hyperintensities in patients with muliple system atrophy	Maiko Umoto	神経内科
European Journal of Neurology	Combination of transcranial sonography,olfactory testing ,and MIBG myocardial scinsigraphy as a diagnostic indicator for Parkinsons deseas.	Masae Izawa-Okawa	神経内科

小計

9

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Ther Apher Dial	Overview of regular dialysis treatment in Japan (as of 31 Decemer 2008).	Nakai S, Suzuki K, Masakane I, Wada A, Itani N, Ogata S, Kimata N, Shigematsu T, Shinoda T, Syouji T, Taniguchi M, Tsuchida K, Nakamoto H, Nishi S, Nishi H, Hashimoto S, Hasegawa T, Hanafusa N, Hamano T, Fujii N, Marubayashi S, Morita O, Yamagata K, Wakai K, Watanabe Y, Iseki K, Tsubakihara Y	腎臓内科・血液浄化センター
Internal Medicine	Improved assessment of aorticcalcification in japanese patients undergoing maintenance hemodialysis.	Ohya M	腎臓内科・血液浄化センター
Am J Physiol Renal Physiol	Fibroblast growth factor 23 production in bone is directly regulated by $1\alpha, 25$ -dihydroxyvitamin D, but not PTH.	Saji F, Shigematsu T, Sakaguchi T, Ohya M, Orita H, Maeda Y, Ooura M, Mima T, Negi S	腎臓内科・血液浄化センター
International Journal of Urology	Calcium oxalate crystal deposition in metabolic syndrome model rat kidneys.	Okamoto M, Kojimoto Y, Ida A, Saji F, Hara I, Shigematsu T	腎臓内科・血液浄化センター
Ren Fail	Reduced expression of perlecan in the aorta of secondary hyperparathyroidism model rats with medial calcification.	Shibata M, Shigematsu T, Hatamura I, Saji F, Mune S, Kunimoto K, Hanba Y, Shiizaki K, Sakaguchi T, Negi S	腎臓内科・血液浄化センター
Clin Exp Nephron	Three-year extention study of lanthanum carbonate therapy in Japanese hemodialysis patients.	Shigematsu T	腎臓内科・血液浄化センター
The Apher Dial	One year efficacy and safety of lanthanum carbonate for hyperphosphatemia in Japanese chronic kidney disease patients undergoing hemodialysis.	Shigematsu T	腎臓内科・血液浄化センター
J Clin Endocrinol Metab	Mild renal dysfunction is a risk factor for a decrease in bone mineral density and vertebralfractures in Japanese postmenopausal women.	Kaji H, Ymauchi M, Shigematsu T, Sugimoto T	腎臓内科・血液浄化センター

小計

8

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Endocrinology	Development of a technique for introduction of an expressed complementary deoxyribonucleic acid into parathyroid cells by direct injection.	Shiizaki K, Hatamura I, Fukagawa M, Nakazawa E, Saji F, Watanabe Y, Akizawa T, Kusano E	腎臓内科・血液浄化センター
透析会誌	透析患者の生命予後に影響する因子の解析—血清アルブミン値などの栄養指標に基づいて—	藤田寿実子, 山岡慶之, 永井万智子, 中谷剛, 半羽慶行, 重松隆	腎臓内科・血液浄化センター
腎と透析	保存期慢性腎臓病患者を大正と下Hb濃度維持効果の検討 KRN321-SC初期第II相試験	西慎一, 下條文武, 重松隆, 飯野靖彦, 細谷龍男, 東海林隆男, 角田隆俊, 菱田明, 磯崎泰介, 成瀬友彦, 戸川雅樹, 勝二達也, 鈴木正司, 秋葉隆, 斎藤明, 渡邊有三, 平方秀樹, 塚本雄介, 内田英二, 椿原美治, 秋澤忠男, 越川昭三	腎臓内科・血液浄化センター
腎と透析	保存期慢性腎臓病患者を対象とした貧血改善効果の検討 KRN321-SC初期第II相試験	渡邊有三, 重松隆, 飯野靖彦, 細谷龍男, 東海林隆男, 角田隆俊, 下條文武, 西慎一, 菱田明, 磯崎泰介, 成瀬友彦, 戸川雅樹, 勝二達也, 鈴木正司, 秋葉隆, 斎藤明, 平方秀樹, 塚本雄介, 内田英二, 椿原美治, 秋澤忠男, 越川昭三	腎臓内科・血液浄化センター
透析会誌	日本透析医学会専門医制度の現状分析	岡田一義, 天野泉, 重松隆, 久木田和丘, 井関邦敏, 室谷典義, 岩元則幸, 橋本寛文, 長谷川廣文, 新田孝作	腎臓内科・血液浄化センター
日本透析医学会誌	過疎地域の透析医療—現状と対策—	半羽慶行	腎臓内科・血液浄化センター
Nephrology Frontier	シナカルセット塩酸塩は血管機能指標(CAVI)を改善する可能性がある	河野孝史, 内野順司, 永川修, 坂井健彦, 吉田豊彦, 白井厚治, 重松隆	腎臓内科・血液浄化センター

小計
7
計
212

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 岡村 吉隆
管理担当者氏名	事務局長 山東 孝章

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		医事課 医療情報部 薬剤部 各診療部門	平成22年4月以前のカルテ、X線写真等は、中央病歴部において集中管理、平成22年5月より、電子カルテが稼働しており、電子媒体により保存されている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	事務局総務課	
	高度の医療の実績	事務局医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	事務局企画研究課	
	高度の医療の研修の実績	事務医事課	
	閲覧実績	事務局医事課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	事務局医事課	
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	事務局経理課 薬剤部	
項規第一号に掲げる体制の確保の状況及び第九条の二十三第一	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全推進室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全推進室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全推進室	

(様式第12)

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	事務局経理課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	事務局経理課 臨床工学センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	事務局経理課 臨床工学センター
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	事務局経理課 臨床工学センター

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び
紹介患者に対する医療提供の実績

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 岡村 吉隆
閲覧担当者氏名	総務課長 大西 範昭 医事課長 湯川 恭英 医療安全推進室長 谷口 明美
閲覧の求めに応じる場所	医事課

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○ 紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	70.3 %	算定期間	平成22年4月1日 ~ 平成23年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	12,885人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	14,923人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,472人	
	D: 初診の患者の数	26,748人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項各号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有) ・ 無
<p>・ 指針の主な内容： 医療関係者それぞれが役割分担と責任のもと、連携したチーム医療を推進しインフォームドコンセントを基本として、安全かつ適切な医療の提供体制を確立することを目指して、次の諸規程を制定している。</p> <p>ア 医療安全推進規程 イ 医療事故発生時の対応マニュアル</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容： 平成12年12月1日から「医療安全推進の新制度」をスタートさせて以降、医療安全推進委員会を月1回開催している。</p> <p>ア 医療事故等の分析と安全管理に係る改善策や院内統一基準の制定 イ 医療安全推進部及びリスクマネージャー会議からの提案事項の審議 ウ 医療事故等の情報開示のあり方の検討 エ その他、医療の安全確保と医療の質の向上に関すること</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 15 回
<p>・ 研修の主な内容： 平成22年度実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部講師による特別講演「医療安全と電子カルテについて」(5月) ・ 講演「医師の視点で捉える危険薬剤の取り扱い」(6月) ・ 講演「医療安全と腎機能評価について」(7月) ・ 講演「添付文書の読み方/3期システム移行後の疑義照会の内容」(9月)2日間 ・ 中堅研修「危険予知に関する事例分析(グループワーク形式)」(10月)2日間 ・ DVD研修「実践!クリニカルKYK(危険予知活動)の進め方・活かし方」(11月)2日間・9回上映 ・ 新人研修「危険予知に関する事例分析(グループワーク形式)」(12月)2日間 ・ トピックス研修〈呼吸ケアチーム協賛〉 「適切な酸素療法の考え方/呼吸ケアチームにおける理学療法士の役割」(1月) ・ 特別講演「医療安全とコミュニケーション」(1月) ・ 外部講師による講演「チーム医療におけるノンテクニカルスキル」(2月) ・ 外部講師による講演〈薬剤部協賛〉「医療用麻薬の適正管理について」(3月) ・ 講演「総括—各部門からの医療安全への取り組み—」(3月) ・ eラーニング「医療安全概論」(10・11月) ・ eラーニング「医療過誤発生と対応例—医薬品使用と安全の基礎」(1・2・3月) ・ eラーニング「医療安全概論」〈未受講者対象〉(2・3月) <p>○医療安全セミナー(研修会受講回数には加算しない学習会) 平成22年度実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回エコーガイド下CVC穿刺講習会(8月) ・ 看護部安全対策リンクナース会にて「シリンジの取り扱い」(9月) ・ 〈研修医対象〉医療安全セミナー(10月) ・ 看護部安全対策リンクナース会にて「正しい抑制帯の使用法」(10月) ・ 看護部安全対策リンクナース会にて「弾性ストッキングの正しい使用法」(11月) ・ 〈研修医対象〉第2回エコーガイド下CVC穿刺講習会(1月) ・ 研修医対象「正しい処方について」(2月) 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療機関内における事故報告等の整備 (有) ・ 無)

<p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療安全推進規程等に基づいて、院内報告制度を定め、積極的な報告の指導に努めている。</p> <p>インシデントレポートの迅速かつ適切な分析等に努めるとともに、リスクマネージャー会議を通じて、事例の共有と改善策を推進している。</p> <p>医療安全推進部にA I事例検討会を設置し重要事例発生時は、迅速かつ集中的に分析検討することとしている。</p> <p>更にアクシデントレポートは、医療安全推進委員会で改善策の検討協議を行うとともに、医療事故調査委員会での審議を必要とするものについては、随時、同委員会での審議を求めている。また、医療事故調査委員会開催の必要性を審議するため、平成22年6月に医療安全審議会を設置した。平成23年7月には、医療事故調査委員会の成立要件を医療安全推進規程に追加した。</p> <p>平成22年5月、電子カルテ導入に伴い、インシデントに関連した患者の状態について、より詳細で迅速な情報共有が可能となっている。</p>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (4 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (6 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<p>・ 所属職員： 専任 (4) 名 兼任 (10) 名</p> <p>・ 活動の主な内容： ア 医療安全推進部の業務に関する企画立案及び評価 イ 医療安全に関する研修その他職員の意識向上に関する指導 ウ インシデントレポート及びアクシデントレポートの受理及び分析評価 エ 医療安全推進委員会及び医療事故調査委員会の運営に必要な事務 オ 診察録及び看護記録等の記載事項の確認と指導 カ その他医療の安全推進に必要な業務全般</p>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に対応される体制の確保状況	有 ・ 無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 ・ 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 院内感染対策に関する基本的な考え方 2 院内感染対策のための組織に関する基本事項 3 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針 4 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6 患者に対する当該指針閲覧に関する基本方針 7 その他の院内感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染のための委員会の開催状況	年 11 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 感染症の予防に関すること 2 感染症予防対策の部門間調整に関すること 3 感染症に関連する検査報告、経過、原因の追跡調査及び整理分析に関すること 4 感染症予防対策実施の教育、計画、指導及び勧告に関すること 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 16 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(全職員対象) 「インフルエンザについて～診断・治療と感染対策～」</p> <p>(全職員対象) 「抗菌薬の適正使用について」</p> <p>(全職員対象) 「HIV感染症・AIDSの現状と検査」</p> <p>(全職員対象) リンクナースによる手洗い講習会</p> <p>(全職員対象) 「自分を感染から守るために」</p> <p>(職種別) 「清掃と感染対策」</p> <p>(職種別) 「病院感染予防について」</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サーベイランスの実施 ・ 感染対策マニュアルの整備 ・ ICTwebの導入 ・ 医療情報システムによる情報共有 <ul style="list-style-type: none"> 各病棟の細菌検出状況レポート infection control news 無菌材料検出菌報告 ・ 院内巡回時のマニュアル遵守状況確認 	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○有 ・ 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>① 医師の視点で捉える危険薬剤の取扱いについて 平成22年6月3日 内容：循環器疾患と危険薬 講師：循環器内科 木村 桂三 インスリン 講師：第一内科 古田 浩人 抗がん剤 講師：腫瘍センター 上田 弘樹</p> <p>② 医療安全と腎機能評価 平成22年7月21日 内容：腎障害における禁忌薬について 講師：腎臓内科 重松 隆</p> <p>③ 添付文書の読み方 平成22年9月13日・17日 内容：警告・禁忌など重要事項の解説 講師：GRM 江崎 旬子</p> <p>④ 医療用麻薬の適正管理について 平成23年3月1日・3日 内容：麻薬の適正管理について 講師：和歌山県福祉保健部健康局 薬務課 抜井栄二 院内の麻薬の状況について 講師：薬剤部 田端佳名子</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (○有) ・ 無)</p> <p>・ 業務の主な内容： 業務手順チェックリストにより確認し、改善が必要と思われる業務については当該部署と相談し、適宜改善策を検討している。また、手順書についても適宜見直しを行っている。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (○有) ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>① 医薬品・医療機器安全情報については、製薬会社MRからの情報提供のほか、インターネットを利用した情報収集を積極的に行い、入手した情報についてはDIニュース等を定期的に発行し周知を図っている。</p> <p>② 緊急を要するものについては随時文書配布により周知を図っている。</p> <p>③ 通知文書で重要なものを電子カルテシステムのポータルサイトに掲載している。</p> <p>④ 今後、緊急かつ重要な情報は医師をはじめとする医療スタッフに院内メールで個人配信することを検討している。</p>	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容： シリンジポンプ・輸液ポンプの安全な使用方法 除細動器の原理及び使用方法 呼吸器の原理及び使用方法 電気メスの原理及び使用方法 電源設備の安全な使用方法 人工心肺の原理及び使用方法	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の作成 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 保守点検の主な内容： 人工心肺・呼吸器・電気メス・除細動器・シリンジポンプ類などの制度及び電氣的安全点検	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 臨床工学技士たよりによるインシデント報告	